

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

ヨコハマタイヤ  
Yo-Ho-Tyres  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン精機

ETAS

KPC

IDS

ENDLESS. Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH

WedsSport  
Racing Team  
with BANDOCH

2009 SUPER GT Rd.6第38回 インターナショナル ポッカ GT サマースペシャル



- コース: 鈴鹿サーキット(全長5.807km)
- 天候:<予選> 晴 <決勝>晴
- 路面コンディション: <予選>ドライ <決勝>ドライ
- チーム: WedsSportRacingTeam with BANDOCH
- 車名: ウェッズスポーツIS350 <GT300 ゼッケン19>
- ドライバー: 織戸 学 / 片岡 龍也
- 監督: 坂東正敬
- 観客動員数: 予選24,000人 / 決勝34,000人

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

ヨネハチ  
Yonehachi Racing  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン精機

ETAS

KPC

IDS

ENDLESS. *Old Line*

KTEL BRIDE

KYB *GruppeM*

REAR VIEW MONITOR *ÖHLINS*

SARD *ODYSSEY*

TAKATA *APP*

ARC *BILION*

日産商品 TOKOH

第6戦鈴鹿、真夏の耐久レースが始まる。

この時点で我々レーシングプロジェクトバンドウはGT300クラスランキングトップで鈴鹿に乗り込んできた。しかし、ウェイト100kg以上は重く、ポイントリーダーで次戦につなぐことが出来るか。

8月22日(土)

フリー走行 10:40~12:25(混走)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温33度 / 路温42度

真夏らしい天候の中、午前中のフリー走行が始まった。

スタートは片岡選手。2LAP目には2分11秒471を記録し、暫定トップになる。その後、予選に向けてのタイヤ選択、セット変更となるためにピット作業を繰り返す。2分10秒344を記録するが、この時点で8番手となり、トップは81号車ダイシンアドバン Ferrariで2分9秒309を記録した。やはり、100kg以上のウェイトは重く、タイムは伸びないがマシンのバランスは悪くない。

後半1/3は織戸選手が走行し、予選に向けてのタイヤ選択と、セティングの最終確認をしてフリー走行が終了。結果、13番手となり、トップの81号車ダイシンアドバン Ferrariと1秒以上のタイム差となった。午後の予選では、セッション3まで残り、シングルポジションからスタートするためにミーティングを行っていた。



予選セッション:1 14:40~15:10(混走) / 15:10~15:20(GT300)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温33度 / 路温42度

今回の予選方式はF1と同じノックダウン予選となる。  
タイムの出ないマシンは篩いに掛けられ予選順位が決定される。

この時間は30分の基準タイムクリアと10分間の占有走行となる。  
セッション1は16番手までに入らないとセッション2に進めない。  
スタートは片岡選手。基準タイムクリアの混走からスタート。  
3LAP目に2分11秒708を記録し2番手タイムとなる。  
その後、織戸選手に交替し2分10秒776を記録するが、この時点で14番手となる。  
今回のレースから初出場となる62号車R&D SPORT LEGACY B4がフロントデフトラブルで赤旗中断となるが、19号車ウェッズスポーツIS350は基準タイムをクリアしている為、再スタート後はGT300クラス占有走行までピットでの待機となった。  
GT300クラス占有走行は片岡選手が1番手でスタート、アタック1LAP目に2分9秒598を記録し暫定8番手となる。タイヤ温存のためにセッション1の走行を終了する。  
トップは81号車2分7秒707を記録した。19号車ウェッズスポーツIS350は10番手となり、セッション2進出となった。

### 予選セッション:2

セッション2は織戸選手がアタックする。  
1LAP目に2分9秒233を記録し暫定トップとなる。2LAP目には2分8秒751を記録、この時点で3番手タイムとなる。ここでアタック終了となり、セッション2は8番手となった。  
トップは66号車triple a ムルシエ RG-1で2分7秒981となった。  
織戸選手の渾身のアタックでセッション3への進出を決めた。

### 予選セッション:3

セッション3は決勝のスタートにも影響する予選となる。  
セッション3を走ったタイヤが決勝のスタートタイヤとなるためである。  
ソフト目のタイヤを選択すれば決勝の最初のスティントは周回数が厳しくなるが、予選順位は上位に入る可能性がある。反対にハード目のタイヤを選択すれば予選順位は低くなる可能性はあるが決勝最初のスティントが長めに走れる。チームの戦略が分かれる予選となる。アタックドライバーは片岡選手。  
アタック1LAP目に2分8秒772を記録し暫定2番手となる。  
2LAP目には2分9秒141を記録、ここで決勝を見据えてアタックを終了し、他のチームの様子を見る。結果は6番手となったが、ポールポジションとなった66号車triple a ムルシエ RG-1に違反が見つかり、明日のスタートは繰上げで5番手からとなった。  
100kg以上のウェイトを積みながらの3列目のスタートはドライバーの頑張りとメカニックの頑張りによるものと思う。  
明日の決勝はランキングトップのままゴールを目指したいと思う。

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

ヨネハツ  
Yonehatsu Racing  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTECH

Jms

アイシン精機

ETAS

KTC

IOS

ENDLESS

Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR MONITOR OHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH



## 監督、ドライバーコメント

### 坂東監督

5番手、凄いことです。うちは2人のAドライバーがいるからノックダウン予選は楽しみでした。しかし、5番手というポジションは今回、新しいエンジンマップを投入してくれた尾川自動車さん、そしてこのウェイトをカバーしてくれたヨコハマタイヤさん、そして両ドライバー、メカニックのおかげだと思っています。なんとかポイントリーダーで帰りたいので明日はプッシュしながら作戦を組み、基本は後半30周でバトルが出来れば表彰台も見えます。何とか明日はきれいな花火をみて帰りたいですね。

### 織戸選手

今日の予選はタイヤセット、車のセットすべてがまとまってよかったと思います。明日に向けての流れが良い方向に向いていると思います。チャンピオン争いをしているチームの中では前からスタートできるので、簡単ではありませんが、明日は上位を目指して行きたいと思います。

### 片岡選手

今回は100kgのウェイトのため苦しい展開が予想されましたが、走り出しから車のバランスも良く、エンジンも重い車なのにレスポンスよく仕上げてくれて気持ちよく走ることが出来ました。タイヤも今回の予選にマッチしていて僕の担当したセッション3も満足の行く走りが出来ました。みんなで出来る限りの力を出し合って取れた5番手だと思います。明日は長いレースになりますが、力を合わせて頑張っていきたいです。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

ヨコハマタイヤ  
Yo-Ho Race King  
北関東自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン開発

ETAS

KPC

IDS

ENDLESS. Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH

## フリー走行(ナイトセッション)

今回の鈴鹿はゴール間際が夜のため、夜間フリー走行がある。

このため各マシンはフォグランプをつけたり、ライトの光度上げたりと工夫を凝らしてくる。今回のナイトセッションではファンの投票による、ライトアップ走行のかわいい順位を決めるファンサービスがあった。残念ながら19号車ウェッズスポーツIS350は2番手となり、808号車初音ミク Studie GLAD BMW Z4がかわいいマシン1番手となった。肝心の走行は最後のステントを走る織戸選手が2/3以上を走り、2分10秒537を記録し、6番手のタイムとなった。トップタイムは11号車JIMGAINER ADVAN F430で2分9秒848を記録、予選での好調さを保つ結果となった。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Vo.Heart Echo  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

AD アイシン開発

ETAS

KPC

IDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS. Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

WCSN 日清食品 TOKOHO



8月23日(日)

午前フリー走行 10:10~10:40

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温33度 / 路温46度

夏の鈴鹿らしい天候となり、午前中のフリー走行が始まった。

スタートドライバーは片岡選手。

決勝を見据えての最終確認が出来る最後のフリー走行、2LAP目には2分10秒334を記録し2番手タイムとなる。マシンの状態は良いようで、織戸選手に交代、順調に周回を重ね30分のフリー走行は終了した。結果、7番手タイムとなり、午後の決勝に向けて良い感触を得た。



決勝 15:00~(121LAP)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温31度 / 路温42度

スターティンググリッドに着くころには、雲は厚くなり雨もパラついてきた。

フォーメーションラップが始まるころには大粒の雨が降ってきたが、数分でもやみ700kmの耐久レースが始まった。スタートは片岡選手。今回は3ピットが義務付けられているので、

19号車ウエッズスポーツIS350の作戦として、周回数の均等割り28LAPでの交代で燃料は軽めで走る事となる。5番手スタートの19号車ウエッズスポーツIS350は1番重いウェイトの中、5番手を死守するが、周りのマシンはウェイトも軽く、ストレートが速い為、少しずつ順位を下げていく、6LAP目に6番手となり、7番手を走行する43号車ARTA Garaiyaとのバトルとなった。チャンピオン争いをするこの2台のバトルは熱く、10LAP目にお互い譲らず1コーナーで2台ともコースアウト、その隙に7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7が6番手に浮上した。100LAP以上の周回数を走るこのレースの序盤で、ポイントランキング上位3台が直接バトルとなり、15LAPもの熾烈な戦いが続き、ピット作業に入るマシンがいたため、5番手まで上がるが前後のマシンは変わらず、28LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350はピットイン、織戸選手に交代する。コースに戻ったときには、10番手で復帰となった。

その後は各車ピット作業の為順位が入れ替わっていく、コンスタントに10秒~11秒台のタイムで織戸選手は走行していき、39LAP目には3番手となった。この時点で1回目のピット作業は全車終っており、数台のマシンが2回目のピット作業を終えていた。しかし、後方を走るマシンはランキング争いをしている7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7、19秒の差をつけて先行しているが、このあとのピット作業で前に行かれる可能性がある。

53LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350は2回目のピット作業となる。片岡選手に交代、コース復帰は8番手でピット作業にもミスは無く、良い流れのレースが続く、

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Vo.Heart Energy  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

AD アイシン開発

ETAS

KTC

IOS

ENDLESS. Old Finlay

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

WGSN 日産商品 TOKOH

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Voit-A-Vis  
Voit-Hout-Echig  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン精機

ETAS

KPC

IDS

ENDLESS

Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

WGSN 日産商品 TOKOH

前に行くのは43号車ARTA Garaiyaで、4秒先を走る、後方は19号車ウェッズスポーツIS350のあとにピット作業を行った7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7で31秒後ろとなっている。7番手を走る19号車ウェッズスポーツIS350は75LAP目には5番手まで浮上するが、4番手は2号車アップル・K-one・紫電、6番手は43号車ARTA Garaiya、7番手は7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7とランキング上位4台がここでも熾烈なポイント争いを繰り広げる。しかし、78LAP目にGT500のNSXがマシントラブルで炎上し、セーフティーカーが入ってしまう。最後のピット作業を終わっていない19号車ウェッズスポーツIS350はレーススタート後の81LAP目、すぐに最後のピット作業に入り織戸選手に交代する。復帰後の順位は6番手、前を走る各マシンはセーフティーカーが入る前にピット作業が終っていた。織戸選手はナイトセッションで昼間のような気迫の走りで行く11号車 JIMGAINER ADVAN F430を追いかけるも、今回ポールポジションを取った81号車ダイシン アドバン Ferrariがすぐ後ろに迫り90LAP目には7番手に後退してしまう。

しかし、110LAP目、後ろには7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7が接近してくる中、何とか81号車ダイシン アドバン Ferrariを抜き6番手に、そして7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7を押さえて6番手でフィニッシュした。

100kg以上のウェイトを積んだマシン、これを最高の状態に仕上げたメカニック、ウェイトをものともせず走りきった織戸選手、片岡選手、ピット作業も完璧、ミスの無い走り、全てが順調に流れていたが、セーフティーカーの導入で後半の作戦がかみ合わなくなってしまったレースとなった。しかし、このレースでチャンピオンを取れるマシン、ドライバー、メカニックとパッケージは揃っていることは証明され、各チームの脅威となっているだろう。ランキングは3位となってしまったが、トップとの差は4ポイント。

残り3戦は激しい戦いとなるに違いない。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Voit Hout Etc  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン開発

ETAS

KTC

IDS

ENDLESS. Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

WCS 日清食品 TOKOH

## 決勝後のコメント

### 織戸選手

決勝はチームの作戦通り順調に進んでいました。3ステイント目で片岡選手がガス満タンで走っていたので自分のピット作業ではリアタイヤ交換、短めの給油で上のほうで戻れる予定でしたがセーフティーカーが入った為にリズムが狂いだしてしまいました。



### 片岡選手

序盤はストレートの速い車にコーナーで詰まったりしましたが、車の状態もよく、自分たちのペースでレース運びが出来ていましたが、セーフティーカーが自分たちには不運となってしまいました。ポイントランキングも3位に落ちてしまいましたが、流れはあるので次戦でポイントリーダーに返り咲きたいと思います。



### 坂東監督

6位、悪くないですが悔しいです。46号車、43号車ともバトルをしていたので、SCで作戦が狂いました。しかし、これもレースです。700kmをノーミスで走ったドライバーには感謝しています。絶対にチャンピオンをとりたいので残り3戦、ミスなく戦います。トップと4ポイント差ですが、まだまだチャンスはあります。もう一度チームのモチベーションを上げて富士に望みます。応援よろしくお願ひ致します。絶対に負けません。





アルファプロデュース

### 予選結果

1	81	ダイシン アドバン Ferrari	2' 07.439
2	11	JIMGAINER ADVAN F430	2' 07.482
3	26	UP START タイサンポルシェ	2' 07.850
5	19	ウェッズスポーツIS350	2' 08.772

### 決勝結果

1	46	エスロード MOLA Z	4:17' 12.955
2	43	ARTA Garaiya	0' 00.607
3	2	アップル・K-one・紫電	0' 01.430
6	19	ウェッズスポーツIS350	0' 27.750

### チームランキング

1	43	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	77
2	2	Cars Tokai Dream28	73
3	19	RACING PROJECT BANDO	73
4	46	TEAM NISHIZAWA MOLA	71

### ドライバーランキング

1	43	新田 守男 / 高木 真一	50
2	2	加藤 寛規	48
3	19	織戸 学 / 片岡 龍也	46
4	46	星野 一樹 / 柳田 真孝	44